

このほど、元気で活動する園児を見守り、大切に感じ、平成15年、市内も「校庭は土」という日本の共同通信社・りながら清水幸江園長は高の興有地2・1畝を借り、固定観念を変えられたニールさんの着想を評価され、地方紙合同企画による地域を進めたのは、ニューシニアに仲間と鋭意努力。「鳥の園」の一大交流拠点が誕生画による地域を進めたのは、ニューシニアに仲間と鋭意努力。「鳥の園」の一大交流拠点が誕生再生で、「新ランド出身のニール・スミ取方式」と呼ばれる手法のたなしるべ

鳥取市の芝生化に驚嘆

③「鳥取市の取り組みが新日本海新聞社から全国に発信され、静岡新聞にも大きく報道された。校庭や空き地を芝生化するという画期的なもので、この英断には感服しました。」

多々の自治体などが視察道が全国の注目の的になった。新日本海新聞社の報道が全国の注目の的になった。

同市布勢の松保保育園は、家がある鳥取市に移り住んだ。母国と日本の違いを痛感という。理事の谷尾洋介氏

園庭芝生化で豊かな感性に

小松 憲司（高知市愛宕町、公務員、51歳）
特定非営利活動法人



（NPO法人）「グリーンスポーツ鳥取」が進めている、学校の校庭などを効率的に芝生化する「鳥取方式」。

鳥取市の松保保育園の園児たちが、一面が芝生の園庭で楽しく遊んでいる様子が地元新聞に出ていた。

「鳥取方式」とは、苗を最初から敷き詰めるのではなく、小鉢程度の単位で芝生を点々と植え、すき間は繁殖を待つという手法。維持管理に手間がかからない利点がある。芝生で裸足で遊ぶようになってからは、転んで泣き出す園児がいなくなってきたという。

自然環境の中で園児同士が遊ぶことで、人間関係調和の方法を

く自然と学び、自立心も芽生える。そんな様子が記事からうかがえた。子供時代に身につけなければならない何かがある。

修学期前の幼児期に必要なのは、英才教育を始める前に、感性面の豊かな情緒を育てること。それがこの時期には最も重要な教育の一つ。「鳥取方式」の全国的な広がり期待している。

行政もこれに呼応し、市内の全45保育園で芝生化を目指すなど驚嘆に値し、全国の模範とするところでしょう。新日本海新聞社の報道が全国の注目の的になった。

高田 昇（静岡県三島市谷田、元陸上自衛官、82歳）